

めぐみ厚生センター センターだより

第 304 号

発行 2008年3月15日

佐賀市緑小路1-3

社会福祉法人

めぐみ厚生センター

めぐみ園 0952(34)7722

富士学園 0952(63)0107

ウイズ富士 0952(51)0063

発行者 栗林恵一
事務局 0952(25)2797
印刷所 (株)古川総合印刷

この仕事を終えるに当たつて



ウイズ富士

施設長 吉田太作

先日、一通の手紙を受け取った。私が四十年前、最初に施設勤めをした広島県北部の山間部にある知的障害のある方の入所施設の職員さんからのものである。文面は、『退職することを一番先に知らせて、お礼を言いたかった』というものだつた。

思えば、最初に施設勤めをスタートしたのは、昭和四十三年からであり、今年で丁度四十年目にあたる。結局、そこに十年余り勤めたのだけれど、四十年前の施設のことなど、今の若い人たちには想像もつかないかも知れない。その広島での施設は小舎制をとり入れたこともあるけれど、年間を通して一日おきの泊まり（宿直）、ペアの担当者のうちひとりが病気でもすれば、数日間泊まり込みで働き続けたり、週一日の休日もその日の夕方から勤務に入つたりという状況で、初任給は確か三万六千円であつたと記憶している。

四十年前のそんな時代の施設の同僚たちと、今は滅多に会う機会もないのに、未だに文面に見られるような繋がりや心の通い合いがあるというのも不思議な話である。その後、いくつかの施設に勤めたけれど、それの方方が時間的にはずっと近いのにも関わらず、身体が離れるごとに心も離れるという関係が続いている。

時代が変わってしまったと言えばそれまでだけれども、時間的にも物理的にも一番遠い人と一番心が通い合うといふのは、どうしてだろうか。四十年前、今の若い人たちより格段に施設の仕事に拘束される時間が長く、自分の自由に使える時間は少なかつたけれど、変速的な勤務を終えた夜遅くの時間から男女を問わず集まって夜を徹してでも仕事のこと、福祉のこと、利用者のこと、人生のことについて語り合つたものである。そしてそのことを通して自分とは違う“ものの見方や考え方”に触れ、互いに自分を高めることができたと思っている。文字通り“切磋琢磨”し合う関係が持てた時代であり、仕事を離れてても仕事をことを考へ続けていた時代でもあつた。

若い人たちの多くは仕事とそれ以外の時間を非常に上手に割り切っている

私は大学時代、カウンセリングを学んだ恩師から、少なくとも人との仕事を携わる者は、哲学を持たなければならぬ“ということを深く追求した方である」ということである。

私が大学時代、カウンセリングを学んだ恩師から、少なくとも人との仕事を携わる者は、哲学を持たなければならぬ“ということを深く追求した方である”ということである。

のではないかと思える節がある。

勿論、四十年前の周りに刺激が乏しかった時代と現在のように周りは刺激だらけの時代とでは人の生き方が変わつても当然なのかもしれない。

話は変わって、知的障害のある方の福祉を考える時、二人の偉大な先達のことを思い浮かべることができる。ひとりは糸賀一雄氏であり、今ひとりは菅修氏である。

糸賀一雄氏は、「この子らを世の光に」や「福祉の思想」などの著者として関係者の間では、あまりよく知られており、京都大学・哲学科出身である。一方、菅修氏は人の心や精神の不可解さを探求する精神科医である。

思いを致すべきは、お二人共に、人は一体何者で、いかに生きるべきか。ということを深く追求した方であると

さを追求する精神科医である。

私は大学時代、カウンセリングを学んだ恩師から、少なくとも人との仕事を

携わる者は、哲学を持たなければならぬ“ということを深く追求した方である”

この言葉が最後に残つてしまつ。何故なら、私たちは“たつた一回だけの限りある、誰とも違う独自の人生を、今この時に生きている“一人ひとりの”人”と向き合つて”いるのだから。そしてそれが私たちの仕事なのだから。

『K・Y』の難しさ



富士学園施設長

諫山眞司

『K・Y』という略語が人々の間で盛んに使われている。「空気が読めない」という意味で使われているようである。その場の空気、雰囲気、相手の心が読めない、さらには先が読めないという時に用いられている造語である。

我々が関わっている障害者自立支援の先行きも全く視界不良である。

私は佐賀県人権擁護に関する役割を担わせていただいているが、世の中には、何と哀しき人々、孤独な人々、不安の内に日々をおくつてい人々が多いことかと胸の痛みを感じる日々である。

人間にとつてお金がないことも、貧しいことも辛いことに違いない。

しかし、最も哀しいことは友達がない、家族から見放された孤独な存在の人々であろう。

そして、最も辛いのは、その人に適切な支援に限界を覚える時である。『K・Y』と言えば私は一九八一年

の国際障害者年の年に何となく時代の変化がやって来る予感を微かに覚えたことに思いを馳せている。そしておおよそ十年前から今日のようすに地域福祉・在宅福祉の流れが加速されることを感じとったことも意識の中にある。

一人の犠牲者もなく、地域や家庭で安全で快適で健康で文化的な社会生活を送る方向性が打ち出されると読んだ私どもは地域で暮らせるためのケアホーム・グループホームの建設に力を注いで来た。来年度は九つ目のケアホーム建設が予定されていてセンターとして全員の地域生活が出来る「受け皿づくり」にこぎつけた。

ところでここに来て障害者自立支援の先行きが視界ゼロとなり、さすがに『K・Y』ができなくなってしまった。しかしここで福祉の原点に帰り、創設の精神に立ち返ることを思ついた。

現在わが国は未曾有の企業倫理の喪失の時代である。拝金主義と危機管理の稀薄さが産んだ产物であろうか？官吏や政治家の無駄使いと汚職でも誰も責任を取らないか、トカゲの尻尾切りでごまかしている。

米軍は何のために駐留しているのか？国民を守るべき軍隊が少女にわざわざ一千億円にしかならないことをご存知でない方も多いと思う。

人は誰でも一人では生きられない。ましてや社会的弱者といわれている人々はそれぞれ必要な支援を受けてやつと生きていくのである。

「どんな障害の重い人も一人残らずしあわせになつてほしい」という祈りと願いは時代や制度が変わつてもずつしりと後に続く我々に強烈に響く創設者の精神として迫つてくる。

一人の友の死を痛む

昨年末、一人の友と突然の別れを体験した。私にとつては十七年間も生活を共にした存在であった。

そのご家族から私は親としての、妹としての素晴らしい『家族愛』『兄妹愛』を感じとつていた。人間として最も大切な命の大切さと家族の絆の強さを教えられていた。

その方のご両親は「この子に多くのことを学びました。この子は私たちの家族の絆を強める働きをしてくれました。」と心の内を吐露して下さいました。謹んで追悼の歌をお捧げ致します。

弔歌

故荒川昌幸様の「靈前に慎んで哀悼の弔歌をお捧げします
汝がために両親は重荷を負ふけれど
汝がよなぎの愛を注ぎたまえ
君が妹汝の存在ありし故

君逝ゆて共に生きたる在りし日を
偲びつづおりやすらぎ祈りて
君が妹汝の存在ありし故

平成十九年十一月十三日

諫山眞司 合掌

(ご本人のお名前を出すことはご家族の了解をいただいています。)

知的障害施設の流れと現状



めぐみ園施設長

森 永 弘 太

知的障害者福祉の流れを見ると、二〇〇三年（平成十五年）に措置制度から支援費（利用契約）制度へ障害福祉の理念と仕組みの大転換。

二〇〇四年（平成十六年）に、今後の障害保健福祉施策について（改革のグランドデザイン案）発表。財政の見直しで、事業者・サービス利用者に大きな負担が予想される。

二〇〇六年（平成十八年）四月に「障害者自立支援法」が施行され、日額制・利用者負担（定率負担・食費・光熱費・日用品費など）増などの厳しい内容である。

二〇〇六年（平成十八年）十月、各事業所の「新体系への移行」がスタート。しかし、この移行に関しては、五年間の経過措置がある。最終的には、全ての施設・事業所が二十四年四月をもつて完全移行しなければならない。グループホーム等は完全移行。又、デイサービス事業は平成十六年度末で全面移行しなければならない。この流れの状況化で、めぐみ園のデ

イサービスは、同年十月より新事業体系（地域活動支援センターと生活介護事業）への移行にふみきつた。新事業体系への移行がスタートして一年半あまり経過したが、現時点では、全国で約十七%弱程度であるとの事。その中心は、通所等の事業所や小規模作業所等で、入所系の事業所は数少ない様である。

この現状をふまえ、国では、「障害者自立支援基盤整備事業」等の対策を打ち出してはいるが、移行をスムーズにするには至っていない。

新事業体系に移行した場合、事業所の場合、現収入と比べ大幅な減収は避けられない状況。夜勤体制の困難さ。支援の質を落とさない為にも職員増が考えられ、収入とのバランスがとれないと考えられる。

利用される障害者の方にも、本人の負担が重くのしかかり、いろいろなサービスが受けたくても受けられない状況になつている様である。

昨年末に、「障害者自立支援法」を抜本的に見直そうという動きが出てきて、年末に、緊急措置を決定し、利用者の負担の軽減・通所事業所の収入改善、受け入れ人数の拡大・入所事業所への支援・ケアホームの対応・就労を支援する事業所への支援等を打ち出し、引き続き見直しを進めいくとの事である。

障害程度区分認定調査項目の見直しが平成二十一年四月に出される予定であり、又、報酬単価の改定等も含めた自立支援法の見直しも二十一年度中にも施行されるとの事である。

大変先行きが不透明であるといつても過言ではないと思う。

又、法人の事業所を利用されている方々の年令も高齢になってきている。七年後には六十五才以上の方々が四十数名になることも予想され、高齢になられた利用者の方々への対応もクローズアップされてくる。

春のあたたかい一日、のんびりと会場を散策してみませんか。福祉とショッピング開催は毎週金曜日示即売しています。

佐賀城下ひなまつりが、佐賀市歴史民俗館等を中心に市内の各所で開催されています。（三月三十一日迄）その中の一つ、新馬場通り（松原神社東参道）のひなまつり会場の中では、福祉作業所が集まり福祉とショッピングを開催。そしてその中にめぐみ園の作品も他の作業所の作品と一緒に展示即売しています。

佐賀城下ひなまつりが、佐賀市歴史民俗館等を中心に市内の各所で開催されています。（三月三十一日迄）その中の一つ、新馬場通り（松原神社東参道）のひなまつり会場の中では、福祉作業所が集まり福祉とショッピングを開催。そしてその中にめぐみ園の作品も他の作業所の作品と一緒に展示即売しています。

めぐみ園



(ひな人形)

めぐみ園で販売している作品の一部です。

富士学園・ ウイズ富士



福祉車両『コスモスII号』側面

『24時間テレビ福祉車両』納車

「24時間テレビ」は、一九七八年に誕生25周年を記念し、特別番組として放送されたのが始まりです。テレビの特性を最大限活用し、高齢者や障害者には支援の行き届かない国々など、福祉の実情を視聴者に知らせるとともに、広く募金を募り、思いやりのあふれた世の中を作る一助になりました。全国の善意ある視聴者の方々から寄せられた募金は、「福祉車両の贈呈」『国内災害緊急援助』『海外援助』『身体障害者補助犬普及支援』『地球環境保護支援』など、単に募金集めだけではなく、テレビの持つメディアとしてのメッセージ力を駆使し、一般の人々に

福祉活動に参加することを呼びかけたことも重要な成果です。

日本テレビ系列民法テレビ局によ

る、24時間テレビ「愛は地球を救う」では、昭和五十三年の放送より「在宅

福祉」の重要性を訴えて寄せられた募金の一部を「在宅福祉」の要となる福祉車両の贈呈が行われてきました。佐賀県にはこれまでの二十九年間に、入浴乾燥車3台、入浴専用車18台、リフト付バス64台、スロープ付軽自動車10台、スロープ付普通自動車7台、電動車椅子69台、電動四輪車3台が県内の福祉施設で障害者に贈呈されています。

近年、富士学園・ウイズ富士では高齢化や重度化を向え車椅子等の利用が年々増加傾向にあり、通院や外出等が極めて困難になつてきました。そこで、雪道対応で、車椅子2台が乗車できるリフト付10人乗りのワゴン車を寄贈して頂くため、毎年イベント時の募金箱の設置や募金活動に協力

24時間テレビ街頭募金風景
(大和ジャスコ店)

協議会が中心となって行われている「24時間テレビチャリティーチャンネル」にて、毎年、「街頭募金活動」に協力された善意ある皆様に、心よりお礼申し上げます。

『福祉車両『コスモスII号』主な装備』

車種：日産キャラバン3.0
4WD

定員：10名（車椅子2台を含む）

装備：●優・低排出ガス認定者●集中ドアロック●パワステ／パワーウィンドウ●ABS●SRSエアバック

●AC／CD●イメージクローズサ

イド＆リア●夜間照明●電動車椅子固定装置他

【24時間テレビ特別仕様】

●一人掛けリクライニング

【24時間テレビ】に納

が届き、今年のバレンタインデーに納

車されました。

真っ白なボディーに24時間テレビ

呈式が予定されています。

※三月中旬には福岡のFBSで贈呈式が開催されました。

佐賀県からは、三年前から

車両の贈呈申請を行つてきま

った。

10名 日産 キャラバン



福祉車両『コスモスII号』主な装備

● 胸部
● 電動
● ルート
● 固定ベルト
● ライド
● 式型スティック

ます。職員一同、感謝の気持ちで一杯です。今後、通院や外出等においてサービスの向上が図られるものと想い、期待に満ち溢れているところであります。最後に、24時間テレビチャリティーチャンネル、佐賀県社会福祉協議会まいづくり課の皆様、そして、全国の募金に協力された善意ある皆様に、心よりお礼申し上げます。

社会福祉協議会が中心となつて行われている「24時間テレビチャリティーチャンネル」にて、毎年、「街頭募金活動」に協力された善意ある皆様に、心よりお



心に響く演奏を
ありがとうございました。



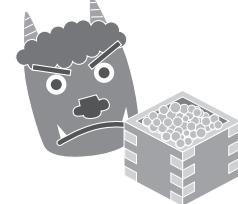
一月十四日、佐賀西高校吹奏楽部の皆さんが来園されました。曲目は、世界にかかる大きな虹をイメージされた「虹の架橋」に始まり、元気がでない時のおまじないで「スープカリフラジリスティックエクスピアリドーシャス」「愛燐燐」皆さん一緒に歌った「夕焼け小焼け」「ふるさと」など迫力のある演奏や歌に感動致しました。

佐賀西高校吹奏楽演奏会



『鬼は外！ 福は内 !!』

始めに『節分の由来』について話がされました。その後、年男・年女の方達の紹介があり、今年は利用者・職員合わせて八名の方達が紹介されていました。年男・年女の方達を中心にして、前年の方達も笑顔になり、きっと前年の邪気を祓うことができたのではないか。豆まさきをしました。手作りの鬼の面の顔も笑っていて、豆まさき役の利用者の方達も笑顔になりました。



二月三日、午後よりデイホールに集まり豆まさきました。

節 分



日中活動班での外出「自然科」

外出の機会を設けることで社会生活を経験し、マナー・金銭感覚等を習得することを目的とした日中活動班別の外出が、それぞれの科で話し合い計画されました。

自然活動科は大和町龍登園で催さ

れている「伍代孝雄一座」の観劇、同じく大和町健康ランドで入浴と食事、富士町「福笑亭」にて食事と近隣で買物の中から各々希望される方に分かれました。

「福笑亭」では囲炉裏があるお座敷で、田舎料理バイキングをいたしました。四十種以上の品揃えでお腹いっぱいになりました。

“特にハンバーグも作ってもらいました”



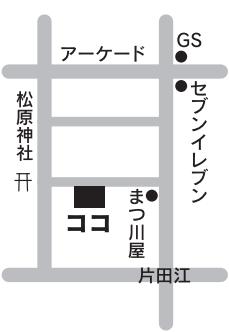
“囲炉裏を囲んでハイチーズ!!”

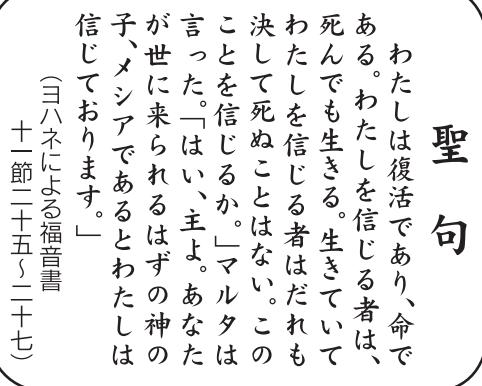
佐賀城下ひなまつり期間中の出店

今年も恒例の佐賀城下ひなまつりが二月十六日～三月三十一日迄開催されます。その期間中に佐賀市障がい者福祉ネットに加入の十三事業所とめぐみ園、ウイズ富士を合わせた十五事業所で出店することになりました。

出店場所は、旧井徳屋旅館西側の空き店舗を利用して金・土・日曜日の午前十時から午後三時までです。

手作りの手芸品、クリッキー、焼物、新鮮な野菜、花苗、切り花などたくさんのお品物があります。ぜひ足を運んで下さい。





いつまでも…
忘れないよ!!

二月二十二日をもつて、小谷卯巳男様が富士学園を退所されました。二十六年間過ごされた学園でのたくさん思い出と共に、シルバーケア三瀬へ移られました。

「お元気で」

ふれあい

荒川昌幸さん お別れ会

去る十二月十三日、天に召されました故荒川昌幸さんのお別れ会が、二月十六日、めぐみ園ディホールにて行なわれました。

会場には、ご両親をはじめ遺族の方、旧めぐみ園職員や利用者・職員など荒川さんがゆかりの方々が集まりました。

富樫牧師による記念礼拝が行なわれ、その後、記念会となりました。お別れの言葉では、三十五年間のめぐみ園での思い出が語られ、在りし日の荒川さんが偲ばれました。

最後に、参列者一人ひとりが御靈前に手を合わせて最後のお別れをしました。



安らかにお眠りください。

**皆様ありがとうございました
(一一・三月分)**

◎法人へ

- 森永 春代 様より 生け花奉仕 寄付
- 栗林 恵一 様より
- レインボー 様より
- 謙山 真司 様より

◎富士学園へ

- 戸上電機労働組合 様より 雑巾を多数寄贈
- 橋口耕治様他有志の皆様 より ブルタブを多量寄贈
- 野田 明利 様より コンサート奉仕 みかん多量寄贈

◎めぐみ園へ

- 石井ゆかり様ご家族 より カップみそ汁を多数寄贈
- 戸上電機労働組合 様より 雑巾を多数寄贈
- 橋口耕治様他有志の皆様 より ブルタブを多量寄贈
- 野田 明利 様より コンサート奉仕 みかん多量寄贈

桃の節句会食会

三月六日、めぐみ園利用者、どりいむ利用者、保護者、職員で桃の節句会食会を開きました。



おひな飾りも
皆さんも大満足



あとがき
インフルエンザ、腸炎など流行しています。皆様、予防を忘れずに!!



「にっこり笑って
はいつチーズ」

二月一日、富士学園の地域科で佐賀市モラージュに行きました。昼食はラーメン街道で味わい、沢山の買い物をされ皆さん大満足でした。

何でもコーナー

く 地域活動科外出

事業ガイド

- 《めぐみ園》**
- ・生活介護事業 「どりいむ」
 - ・地域活動支援センター

《富士学園》

 - ・地域移行型ケアホーム 「オリーブ」
 - ・ケアホーム7ヶ所